

島民

最終号

Vol.136 2021 3/1

中之島の「街事情」マガジン

今まで
読んでくれて
ありがとう！

月刊島民の
つくり方



ナカシマ大学

「水の都・大阪に
浮かぶ中之島」

高島幸次

ほか申し込み受付中!

月刊島民のつくり方

いきなりだけど、「島民」は今回が最終号。2008年8月の創刊から数えて136回、12年間のフィナーレを飾るテーマは、やはり「月刊島民のつくり方」。中之島を見つめ続けてきたからこそできる「街の見方」そのものを紹介。「島民」はなくなっても、これさえあれば読者諸君は自分で中之島のいいところを見つけられるはずだ！

文／大迫力

Chapter I

「コンセプト」

想像力と客観的な
視点を駆使して、
街の個性を
浮かび上がらせよう。

2

008年8月、京阪電車中之島線が開業するのをきっかけに、中之島エリアのフリーマガジンとして誕生した「月刊島民」。当初、これほどの長寿メディアになるとは編集部ですら予想できなかった。

それはさておき、息長く続けられたのは「島民」のコンセプトがそれにあつたからだろう。まずはメディアの土台であり、どのように街を捉えるのかの立脚点となるコン

〈月刊島民のコンセプト〉

大阪・中之島は企業ビルや官公庁・公共施設が建ち並ぶ古くからのオフィス街です。このようなエリア自体は珍しくありませんが、以下の点で国内でも唯一といえるユニークなエリアと言えます。

- 街自体が独立した細長い島でありながら都心のど真ん中にあり、船が行き来する川を間近に望む。

→東京の丸の内も日比谷も大手町も都心にある水辺のオフィス街だが、お濠には開放感はない。

- 島と周囲の街を結ぶ橋がふんだんに架けられ、人もクルマも関係なく行き来が常に活発である。

→23本の橋の中で、自動車が通れない橋＝錦橋・水晶橋・中之島ガーデンブリッジ＝はあっても歩行者が通れない橋は存在しない。

- オフィスのほか、美術館もホテルも病院も公園も住宅も存在し、この島だけで24時間が完結できる。

→福岡にも中洲があるが、あれは歓楽街の島であって「生活する島」ではない。

- 都市の歴史そのものを体現するような建築物に事欠かず、島自体が一つの博物館である。

→よくある再開発の「ウォーターフロント」とはいかんせん、役者が違う。

中之島がこんな「唯一無二」の場所であるにもかかわらず、人によっては家よりも長い時間を過ごす街なのに、単なる「仕事の間」と考えられているのはもったいない。食べたり飲んだり遊んだりする街でもある中之島は、そこで働く人々にとって十分に「生活の間」なのです。



2008年10月19日、京阪電車中之島線が開業した。

Playback



あれは12年前… 島民誕生の瞬間。

「出た! ワシらの島が動き出す」
Vol.1 (2008年8月号)

中之島に関わる人を「島民」と呼ぶ。たとえ通り過ぎるだけであっても、橋を渡る人はみんな島民じゃないか! 親しみやすいこのタイトルこそ、「島民」の方向性を決定づけたと言える。毎月1回1日発行の定期的なサイクル、カバンに入りやすいB5変型サイズといった刊行スタイルは、単なるプロモーションツールではなく、中之島という土地に愛着を持ってもらいたいという願いがこもっている。中之島線の開業を目前に控え、まさに島民たちのソワソワした期待感を反映した特集テーマであり、「ワシら」という第1人称の使い方にも、街の人と一緒にこれから盛り上げていこうという意図が現れている。

セプトについて考えてみよう。
今振り返って特徴的なのは中之島を「生活の場」としている点だろう。街をグルメやショッピングといった「消費」の場として捉えるのではなく、あくまでその街で生活する人々、すなわち島民の視点から見つめること。それが「島民」のファーストコンセプトであり、いわゆる情報誌的な観点とは一

線を画したさまざまな特集を組める理由でもある。実際、中之島には飲食店やファッション関係のスポットは少なく、またそれらを取り上げることが中之島らしさを浮かび上がらせることにはならない場合も多い。
大切なのは生活者「島民」としての身体的な実感だ。どのようなものが中之島的で、反対にどのようなものは中之島の見極めをする必要がある。歴史と名建築に囲まれた中之島は「シブい」が、「かわい」や「レトロ」は本質から少し離れてしまうのではないか。食べ歩きや買い物に訪れる街ではないとはいえ、オフィスビルの中の食堂や喫茶店、洋品店などだろうか。街の性格を形づくるものは何かを考えること。その積み重ねがメディアとしての姿勢となり、独自の視点を養うことにも繋がる。

Playback

スタンスを示した初期の特集たち。



「可愛くするな、シブくいけ!」
Vol.2 (2008年9月号)

レトロ建築や癒し空間として紹介されることも多い中之島だが、その本質は歴史に裏打ちされた「シブさ」ではないか。建築、老舗、歴史の紹介を通してそれを紐解くと同時に、メディアとしてのスタンスを示すものでもあった。



「いつの間にか、駅前だらけ。」
Vol.3 (2008年10月号)

中之島線の開業を祝う大ボリューム号。多くの関係者に取材を試みつつも、「駅前だらけ」という生活実感を大切にしたい我が街のニュースを扱う。各駅のご近所さんとして当時の平松邦夫大阪市長が登場したのは伝説。



「その時、中之島が動いた。」
Vol.6 (2009年1月号)

NHKの人気番組にあやかったタイトルで中之島の歴史を、街のエンターテインメントとして紹介した。銅像にICレコーダーを向けて写真を撮り、インタビューをしたような記事を書くという迷企画も堂々と行っている。

も

う一つ大切なのは、ここにもあるように中之島以外のエリアと比較することだ。都会の真ん中にありながら川に囲まれているというロケーションは、それだけでも十分に個性的だが、国内の水辺の街と比較することでさらに中之島の特長がはつきりする。それを誌面で紹介すればいいの言うまでもない。

やや無理やりな感じもしないでもないが、東京や福岡などと比べることで、中之島のキャラクターがさらに明確になるのではないだろうか。

・豊かな歴史の蓄積がある

そのエリアで生活する人々の視点で街を見つめると共に、他のエリアとの比較から客観的な分析を導く。地に足のついた体感と、冷静で俯瞰的な理解。

特集テーマ

大切なのは読者との距離感と、「島民」としての感覚。

中之島で生活する島民として街を捉えるというコンセプトに基づき、どうやって毎回の特集テーマを見つけてきたのか。さらに具体的に考えてみよう。実際「よくこれだけネタが続くね」とは何度も言われてきた言葉だ。

中 之島で生活する島民として街を捉えるというコンセプトに基づき、どうやって毎回の特集テーマを見つけてきたのか。さらに具体的に考えてみよう。実際「よくこれだけネタが続くね」とは何度も言われてきた言葉だ。

では、距離感とは何か？ それは読者の中之島に対するイメージと前提知識の量を推し量ることによっておおよそ理解することができる。例えば、そのテーマが読者の持つ中之島のイメージに含まれているものなのか、そうで

だ。「中之島の街事情マガジン」を謳っている以上、その読者は中之島に対して何らかの知識や関係性を持っている。その感覚に照らして距離感を測るのだ。

はなののか。また、そのテーマに関しては読者ほどの程度前提となる知識を持つていないのか。これらを掛け合わせて着地点を探りながら、どうすれば面白い誌面になるのかを考えていく。

そのためにはコンセプトとして掲げた生活者の視点が必要になる。それぞれのテーマが島民にとってどのくらい身近なのか、話題になっているのか、自分の体感としてわかる方がいいからだ。テレビや新聞などのマスメディアでは無理かもしれないが、特定の地域を取り上げるローカルメディアなら、読者の属性をある程度想像できるし、

できないなら知らない。誰もがもう知身近なのか、話題になっているのか、自分の体感としてわかる方がいいからだ。テレビや新聞などのマスメディアでは無理かもしれないが、特定の地域を取り上げるローカルメディアなら、読者の属性をある程度想像できるし、できないなら知らない。誰もがもう知

① やっぱり

イメージの大きさ★★★★ 知識の量★★★★

メリット

もっともテーマを見つけやすく、誌面もつくりやすいのが「やっぱり中之島はこれ!」という読者のイメージに寄り添ったものだ。大阪市中央公会堂、バラ園、クルーズなど、中之島と聞けば思い浮かべそうなテーマ群は、なぜそれを取り上げるのかについて説明が不要で、思い切って掘り下げたとしてもマイナー感が出ず、「そうそうこれが知



デメリット

ただし、読者のイメージに沿うということはよく知られている場合も多いだけに既出情報に気をつけたい。雑誌やwebメディアなどで知り尽くされていることの焼き直しになってはいけない。言い換えれば、どのような誌面をつくるのか、独自性が試されるわけだ。情報量で差を付けるのか、他にはない切り口で勝負するのか。王道ゆえにライバルも多く、メディアのスタンスが試される。

Playback

中之島と言えば、これ。



「ダイビル・マニア!」
Vol.14 (2009年9月号)

一時閉館の際はダイビルに事務所のあった島民プレス。建築意匠の解説、ビル内で長く売店を営んできた女性店主へのインタビュー、オフィスビルの供給過剰問題など、中之島の一大事を多様な視点で取り上げた。



「バラが咲いた」
Vol.70 (2014年5月号)

中之島の定番スポットであるバラ園の楽しみ方を、リニューアルを手がけた京阪園芸への取材を元に徹底解説。バラの品種別の特徴を事細かに紹介するなど「バラってきれい〜」では済まない執着心がほとばしる。



「大阪市中央公会堂」
Vol.122 (2018年9月号)

竣工から100周年を迎える月を狙いました満を持しての特集。主に建築的な観点から中央公会堂の見方を紹介。倉方俊輔さん&高岡伸一さんコンビの対談や出来事年表など、保存版的内容を目指した。

③意外と…

イメージの大きさ☆☆☆ 知識の量☆☆☆

メリット

案外やりやすく、読者の注目を集めやすいのが、中之島のイメージを反転させるようなテーマやこれまでになかった動きを取り上げることだ。そもそも知られていないこ



となので、取材や調べたことをストレートに届けるだけで、「へえ!」と純粋な驚きを引き出すことができる。中之島らしさとは何かをよく理解し、それを上手にひっくり返してあげよう。そのためには自分が多くのことに興味を持って面白がり、率先して驚く必要がある。

デメリット

知らないことを求め過ぎるあまり、重箱の隅をつつくような知識を並べるだけのものにはなってはいけない。また、知られていない事柄なので、説明不足に陥らないよう、特に冒頭は興味を惹きやすいビジュアルにするなどの工夫も必要になる。

②気になる!

イメージの大きさ☆☆☆ 知識の量☆☆☆

メリット

当たり前の話かもしれないが、新しいものはそれだけでニュースになる価値がある。素早く話題にキャッチアップすることで、「知りたいことが載っている」というメディアとしての信頼を獲得することにも繋がる。ところで、何を「ニュース」として扱うかにはメディアの個性が滲むもの。実は町内会の会員が増えているといったマイクロな話は、ローカルメディアだからこそぜひ押さえておきたい地元のビッグニュースだ。

デメリット

商業施設やミュージアムのオープンなど誰もが取り上げそうなニュースには注意が必要。「やっぱり」と同様に独自色をどのように演出するかに気を配りたい。一方で、誰もが気になる新しい情報はストレートに伝えた方が喜ばれる場合もある。バランスが大事。



Playback

知らないことはまだまだ多い。



「手塚治虫が歩いた道」 Vol.72 (2014年7月号)

中之島にあった大阪大学付属医学専門部に通った手塚治虫。作品にも中之島周辺が多数登場することを、在野の研究家・田浦紀子さんの力を借りて紹介した。有名人の特集は関心を引きやすく安心して内容を深められる。



「本日は、お日柄も良く」 Vol.69 (2014年4月号)

水辺の非日常感を活かし、ウェディング関連施設が増えているなど、図書館で調べ物をしているだけではわからない。今や定番化した「川沿いのチャペルを見て「その手があったか!」と膝を打ったものだ。



「島民とウイスキー」 Vol.75 (2014年10月号)

流行っているのをいいことに知られざる歴史にスポットを当てる手法。NHKの『マッサン』の人気にあやかり、サントリー創業者の島井信治郎をはじめウイスキーに関わる人物と中之島のつながりを紹介した。

Playback

地元のニュースをいち早く!



「土佐堀ストリートジャーナル」 Vol.84 (2015年7月号)

川沿いのテラスが増えるなど土佐堀通の風景が急速に変わり始めていたこの頃。個性的なショップが多数登場したい一つになく、若々しい特集。その後も続く水辺のロケーションを活かした店舗の進出を予感させる内容に。



「中之島インバウンド」 Vol.96 (2016年7月号)

今となっては昔の話だが、外国人観光客増加の波は中之島にも押し寄せていた。島民なら誰しも気になる変化をテーマに、「で、中之島で何をするの?」を直撃。ローカルメディアらしいフットワークを発揮した。



「香雪美術館から広がる世界」 Vol.117 (2018年4月号)

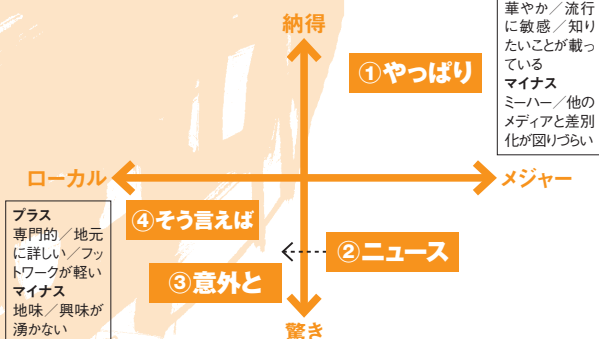
中之島フェスティバルタワー・ウエストにオープンする美術館の情報をいち早くキャッチし、開館に合わせて特集。単なる速報に留まらず、詳細な作品解説や人物紹介も加えるあたりが知りたがり屋の島民ならではの。

テーマとは別に、その号を読んだ読者が「島民」に対してどのような印象を抱くか意識しておきたい。①④を、読者が受け取る印象に応じて分類してみた。

王道の①は他のメディアでもよく取り上げられるテーマであることが多い。ため、華やかさがありメジャー感がある。読者の既存イメージにも沿っている。親近感を持つてもらいやすい。

②のニュースも新規性がある。ポジティブな印象があるが、取り上げるニュースの内容によってはメジャー感よりもローカル性を補強するものになる。意外性のある③は、驚きを持って受

●特集テーマと読者に与える印象



け止められるため、読者にとっては知らなかったことを発見でき、専門性があることを印象づけやすい。視点をズラして普段は意識しないことを拾い上げるパターン④は、エリアを限定したメディアだからこそ扱える部分であり、他のメディアとの違いをアピールできるだろう。

回数を重ねていく中では、このような読者が抱く印象を意識してバランスを取ることで、特に「島民」のようなローカルメディアにとっては大切だ。

①ばかりではミーハーなものになって「もう知ってる」と飽きられそうだし、すぐにネタがなくなりそう。②に特

化しようとしても、そう毎回大きなニュースなどない。かと言って、ローカル性を強調しようとし過ぎると③や④ばかりになり、小難しい印象でなかなか取っ付きにくいし、視点がマニアックな方向へ偏ってしまう。それに不要不急の内容だけでは、継続的に興味を持って読んでもらえそうにない。

島民Ⅱ読者にとって身近なことはかりでもいけないし、知らないことばかりが続いてもいけない。ローカルメディアならではの差別化戦略も必要だ。テーマ選びにおいては、毎回読みたくなる、すなわち飽きさせない気配りも忘れないようにしたい。

④ そう言えば

イメージの大きさ☆☆☆ 知識の量☆☆☆

メリット

言われてみれば確かに中之島にあるが、普段はまったく意識しないものや実はよく知られていないものを調べてみる。すると案外魅力的で、学べることも多い。身近なものだけに読者にとっての気づきもいろいろ。視点を変えるだけでまだまだ知らない楽しみが見つかるという読者へのメッセージでもあり、日常生活を少し豊かにしてくれるものでもあるかもしれない。



デメリット

「意外と…」と同じく、単なるマイナー主義にならないよう注意が必要だ。季節感や流行といった文脈がないならば、なぜ今このテーマを取り上げようと思ったのか、半ば強引にでも説明するようにしよう。その方が面白かったりする。

Playback

「日常」にも関心を持てば。



「中之島の「現場」から」 Vol.41 (2011年12月号)

最新施設や過去の歴史的建築がニュースになるなら、「工事中」だってアリだろうという開き直りのような特集。これが意外に奥深かった。自分が面白いとさえ感じられれば、何だってニュースになるのだ。



「蔵屋敷の「常識」」 Vol.54 (2013年1月号)

江戸時代の中之島には蔵屋敷があって…。ところで、蔵屋敷ってどんなところ？ 当たり前だと思っている歴史こそ実は盲点だったりする。灯台下暗し。「それってつまり何？」の視点は大事にしよう。



「この碑、なんの碑？」 Vol.126 (2019年1月号)

中之島を歩けば石碑に当たるというほど、とにかく石碑だらけ。普段はあまり注目していないものでも、意外な発見があるものだ。まずは足元を見つめ直すだけで、その場所が素敵に見えてくるかもしれない。

Chapter III

「連載ページ」

地域色をピンポイントで捉え、ディテールを強調。

特

集ページがフリーマガジンの主役だとすれば、連載ページはそれを陰で支える名脇役だ。特集ほどのボリュームを割けない分、インパクトや驚きのあるトピックを濃縮して詰め込めるようにしたい。

ここでも大事なのはその地域をよく表現しているかどうか。「島民」の場合

た。上手くいけば特集テーマよりも中之島らしい地域性を強調することができる。美は細部に宿るのだ。

連載というからには、ある程度のボリュームがなければならぬ。かつ回数を重ねても飽きのこないよう、同じカテゴリーでも少しずつ特徴の異なるものが揃っているテーマが望ましい。

中之島を構成するさまざまな要素の中から、なるべく典型的なローカル性を抽出できる企画になるように努めた。



「Talk about bridges!! 橋の話をしよう」

●強調するローカル性→橋

中之島の風景を彩る橋を紹介するコーナー。網本武雄画伯の見入ってしまうような細密なタッチが、それ

ぞれにデザインも来歴も違う名優たちにスポットライトを当てた。建築ライターユニット・ぼむ企画のユーモアとちょっと毒のある文章も、むしろ橋への親近感を高めてくれた。



「ちょっと、隣のビルまで」

●強調するローカル性→ビルのある街

オフィスビルをはじめとした建物の中にある店舗を取り上げた。ビルの多い中之島だからこそ、「隣の」というニュアンスが効いてくる。近所にあっても、普通、用事のないビルには入らないもの。探検気分を訪ねてみようという趣旨だったが、今となってはちょっとやりづらいかもしれない。



「中之島辻説法」

●強調するローカル性→忙しく働く人

NHKの「シブ5時」でも悩み相談コーナーを受け持つ釈徹宗先生に、中之島のワーカーたちが救いと教えを請う人生相談。あくせと働く島民たちには悩みも多からうと始めたが、今思うと大胆な企画だった。釈先生の寛大なお心に感謝し、バックナンバーを開いて部屋に飾ってしまいそう。



「ナカノシマニア」

●強調するローカル性→地元ネタ

文字通り、知られざる中之島周辺ネタを拾い上げる。定食の白飯を「シマ」と呼ぶ語源、橋の掃除、伝説のフリーペーパー、靴磨き職人などなど、ローカルなネタなら何でもOK。むしろ細かければ細かいほどマニア感が滲み出てふさわしい。



「NAKANOSHIMA Collection」

●強調するローカル性→島民の装い

働きに行くのも美術館やコンサートに出かけるのにも、中之島は装って出かけた街である。そんな島民たちのファッションのこだわりを老舗紳士服店の名物店長がチェック。初回はいろいろな施設の「ガードマン」に注目。今ではまさにセキュリティ上の問題で不可能だろう。なぜか「座右の銘」を聞いている。



「シマノネタ」

●強調するローカル性→歴史

中之島周辺にまつわるさまざまな伝承や物語を、上方講談師・旭堂南海さんが執筆してくださった。ビートの効いた疾走感のある文体はまさに講談。近代以前の物語も多く、何百年も前に中之島を行き交った人々の息遣いが聴こえてくるようだった。

「スピニアウト」

イベント開催や書籍出版など、より立体的に街を紹介しよう。

印

刷物かWebメディアかを問わず、メディアが情報発信媒体としてだけではなく、イベントの開催や関連書籍・グッズなどの販売へと発展していくのは必然的な流れだ。特にローカルメディアの場合、そのエリアに話題を生み、実際に人の流れをつくり出すことができるため、情報・人・知識・娯楽などが集まるプラットフォームの

ような機能を果たせるようになる。

もっとも手軽なのがイベント開催だが、「島民」の場合はナカノシマ

大学となる。創刊1年後の2009年にキックオフセミナーを開催して以降、毎月1回のペースでさまざまな講座を開催しているのはご承知の通り。

イベントの強みはなんと

言っても、実際にその場の雰囲気や講師の話ぶりを体感してもらえる点だろう。特に中之島の場合、建物自体が街の魅力そのものでもあり、それらを訪れる機会を設けることは、フリーマガジンとはまた違う中之島らしさの案内でもある。クルーズやライブ、落語会、見学ツアーなど、アクティビティ系も有効だ。

コンテンツが蓄積されていけば、ナカノシマ大学講座をベースにした書籍出版

「感」する講座。

2010年12月「ウイスキーがお好きでしょ？」
福士収（サントリー・山崎蒸溜所）

中之島周辺には縁深いサントリー。そのウイスキーのテイasting講座を堂島にある中央電気倶楽部にて開催。地元の企業と連携した講座は人気が高かった。



2016年12月「第一回ナカノシマ大学寄席」
金水敏・林家花丸・桂三四郎

落語会も人気講座の一つ。ナカノシマ大学寄席では、大阪大学の研究者によるアカデミックな講座と、そのテーマに関わる落語の共演という新たな地平を開拓しようと試みた。



Playback

島民&ナカノシマ大学生まれの本たち。



久坂部羊
『ブラック・ジャックは遠かった』

(2013年3月)
医療ミステリーの旗手の原点は、かつて中之島にあった大阪大学医学部で過ごした学生時代。時に遊び、時に悩んだ若き日の思い出を綴った「中之島ふら青春記」は、長らく「島民」で連載され、大人気を誇った。単行本として出版され、2013年新潮文庫に。



鷺田清一・内田樹・
釈徹宗・平松邦夫
『おせっかい教育論』

(2010年10月)
キックオフセミナーの内容をベースに構成した記念すべき第1弾。教育の本質とは、ビジネスでも個人の利益追求でもなく、教えたい人が率先して行う「おせっかい」であると説いた本書は、まさにその後のナカノシマ大学の活動を象徴しているかのようでもあった。



黒田一樹
『すごいぞ！私鉄王国・関西』

(2016年6月)
中之島大学史というものがあるれば燦然と輝くであろう、全回満員札止めの男・黒田一樹さん。阪急・南海・阪神・近鉄・京阪、大手私鉄5社の個性をキーワードによって解剖。東京人だからこそ見える関西私鉄の正体を明かした本書は第41回「交通図書賞」を受賞した。



高島幸次・釈徹宗
『大阪の神さん仏さん』

(2012年8月)
「島民」にもご縁の深いお二人による、ナカノシマ大学の対談講座シリーズを元に生まれた一冊。住吉大社、四天王寺、生國魂神社、大阪天満宮といった土地に根差した神社やお寺に目を向けることから、大阪という都市や、そこに生きる人々の特性を読み解いた。

さよなら「島民」イベント スケジュール

その1

さよなら「島民」フェアを ジュンク堂書店 大阪本店にて開催!

さよなら「島民」フェアをジュンク堂書店大阪本店にて開催! 島民&ナカノシマ大学関連の本を中心に、バックナンバーも配布予定(数量限定)。こちらでは誌面と連動してこれまで何度もコラボレーション企画を開催。これもまたローカルメディアの展開の一つだ。



期間/3月1日(月)~31日(水) 場所/ジュンク堂書店大阪本店
問い合わせ ☎06-4799-1090

その2

「うめきたTalkin' About」で、 ローカルメディアの 可能性を語り合おう。

グランフロント大阪にある大阪ガスのエネルギー・文化研究所「都市魅力研究室」では、毎月多岐にわたるテーマで参加者が語り合う「うめきたTalkin' About」を実施中。3月31日(水)は「ローカルメディア」がテーマで、「島民」編集・発行人の大迫力が話題提供者として登場。長年の読者も最終号で初めて読んだあなたも大歓迎。ワイワイ喋ろう。



日時/3月31日(水) 7:00PM~9:00PM
会場/大阪ガス エネルギー・文化研究所 都市魅力研究室
(グランフロント大阪北館 タワーC 713)

参加費/無料(申し込み不要) ※オンライン(Zoom)でも開催予定
問い合わせ ☎06-6205-2366
<http://www.toshimiryoku.jp>

その3

大阪府立中之島図書館で 「島民」ヒストリー& 奈路道程展を開催!

4月24日(土)のナカノシマ大学4月講座「水の都・大阪に浮かぶ中之島」(P10)に合わせて、これまで中之島について伝えてきた「島民」の歴史を振り返る展示を開催。創刊号から最終号まですべての号の表紙を飾った奈路道程さんのイラスト原画や関連作品などを展示するほか、「島民」&ナカノシマ大学関連本やグッズの販売なども予定。これで「島民」ロスの心配も無用だ。



会場/大阪府立中之島図書館
※展示期間や時間などの詳細は、4月1日以降、
中之島図書館のインフォメーションサイトで確認を。
<https://www.nakanoshima-library.jp/>

「島民ロス」
のあなたに
捧げる!

Playback

中之島を「体」

2009年10月キックオフセミナー「21世紀は街場で学べ!」

鷺田清一・内田樹・釈徹宗・平松邦夫

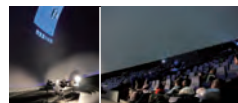
大阪市中央公会堂の大集会室に約500人の聴衆が集った盛大な幕開け。大学芋を売り学費を稼ぎ、ナカノシマ大学応援団なる謎の集団も現れヒンシュクを買ったのもよき思い出だ。



2012年3月「江戸時代の大坂・町人科学者列伝」

嘉数次人(大阪市立科学館)

一度はやってみたかったプラネタリウムでの講座。全天周スクリーンに資料を投影し、江戸時代の大坂で活躍した科学者たちの物語を、参加者たちはまさに寝ながら学んだ。



のような展開も可能だ。書籍に限らず、オリジナルグッズ、旅行プラン、今なら街歩きのための音声ガイドアプリなどもありかもしれない。

これらの情報をまたフリーマガジンのトピックとすることで、さらに立体的に街を紹介することが可能になる。街で生活する人々と同じ地点に軸足を置くローカルメディアだからこそ、こうした展開を続けることに価値があるのだ。



本渡章

『古地図で歩く大阪ザ・ベスト10』

(2017年6月)

ナカノシマ大学の登場回数トップは古地図コレクターで作家の本渡章さん。大阪市内各所を古地図片手に歩き、街の個性と歴史を読み解く「古地図ウォーカー」シリーズがまとまった本書のほか、『鳥瞰図!』『大阪古地図パラダイス』もナカノシマ大学生まれ。



田中輝美

『すごいぞ! 関西ローカル鉄道物語』

(2020年2月)

鉄道「すごいぞ!」シリーズの新展開は、JR完乗の乗り鉄ジャーナリストによるローカル鉄道の物語。大阪・兵庫・和歌山・京都・滋賀を走る11社の最前線をレポートし、地域の足を残そうとする人々の奮闘ぶりを伝えた。

ナカノシマ大学講座および天神寄席の前売券販売に関するお知らせ

「島民」の発行は終了しますが、ナカノシマ大学講座の開催および天神寄席の前売券販売はこれまで通り行います。
今後、各講座や落語会の詳細はナカノシマ大学webサイトを中心に発信していきます。皆様のご参加をお待ちしております！



ナカノシマ大学 NAKANOSHIMA UNIVERSITY

3/27(土) 3月講座「浪花千栄子と大阪喜劇 〜ラジオ・映画・テレビ・コメディの時代〜」 講師／佐藤利明 (娯楽映画研究家)

NHK朝の連続テレビ小説のモチーフとして今また注目を浴びる女優の故・浪花千栄子さん。難波が生んだ最高のコメディエンヌを中心に、大阪喜劇の歴史と魅力を娯楽映画研究家・佐藤利明さんが語ります。

日時／3月27日(土)2:00〜3:30PM頃(開場1:30PM) 会場／堂島ビルディング 9階ホール 受講料／2,500円 定員／40名



4/24(土) 4月講座「水の都・大阪に浮かぶ中之島」 講師／高島幸次 (大阪天満宮文化研究所)

中之島の400年の歴史を、大阪の歴史のスペシャリストが一通りご紹介！中之島や大阪が「ほんまに水の都だった頃」の様子をさまざまな史料・絵図や写真から紐解きます。また、水都大阪がテーマの春野恵子さんの浪曲(P12)も動画で上映します。

日時／4月24日(土)10:00〜11:30PM頃(開場9:30PM) 会場／大阪府立中之島図書館 3階 多目的ホール 受講料／2,000円 定員／50名



◎4月1日よりお申し込み開始

5/22(土) 5月講座「清林文庫の世界と古地図トピックス」 講師／本渡章 (作家・古地図コレクター)

清林文庫は東畑建築事務所の創業者による稀覯本&古地図コレクション。その概要を紹介すると共に、一部コレクションを展示。他にも昭和の伊能忠敬と呼ばれた鳥瞰図絵師・井沢元晴の作品や、天保年間の古地球儀もお披露目。講座も展示もマップラバー必見！

日時／5月22日(土)10:00〜11:30PM頃(開場9:30PM) 会場／大阪府立中之島図書館 3階 多目的ホール 受講料／2,000円 定員／50名



天満天神繁昌亭
毎月25日のお楽しみ

天神寄席にいらっしゃい

三月席 ◎お申し込み受付中

「水の都だった大阪」

水運により文化と経済を発展させてきた大阪ならではの川にまつわるおなじみの落語。さらに、水都大阪をテーマにした春野恵子さんの創作浪曲をお楽しみいただきます。

落語／桂文華「船弁慶」、桂福矢「野ざらし」ほか
浪曲／水の都の大阪めぐり」春野恵子

鼎談／桂春若、高島幸次

ゲスト 春野恵子(浪曲師)

開催日／3月25日(木)

開演時間／6:30PM(開場6:00PM) 受付開始5:45PM
受講料／2,300円(通常・前売2,500円/当日3,000円)



春野恵子

四月席 ◎お申し込み受付中

「老後と長寿の未来」

時代が変われば健康長寿は人々の願いです。落語の登場人物たちも。鼎談では、気になる最先端の生命科学について大阪大学医学部の吉森保先生にうかがいます。

落語／桂福団治「寿命・笑福亭学光」三途の川も近代化」、桂二笑「長命」ほか

鼎談／桂春若、高島幸次

ゲスト 吉森保(大阪大学医学部教授)

開催日／4月25日(日)

開演時間／6:00PM(開場5:30PM) 受付開始5:15PM
受講料／2,300円(通常・前売2,500円/当日3,000円)



桂福団治

五月席 ◎4月1日よりお申し込み開始

「人間だから学ぶのだ！」

教える人と学ぶ人が登場する斬を集めました。鼎談ゲストは功績顕著な科学者として、誉れある日本学士院会員に選出された大阪大学文学部の金水敏先生です。

落語／桂梅団治「天災」、林家花丸「あくびの稽古」、桂春蝶「やかん」ほか

鼎談／桂春若、高島幸次

ゲスト 金水敏(大阪大学文学部教授)

開催日／5月25日(火)

開演時間／6:30PM(開場6:00PM) 受付開始5:45PM
受講料／2,300円(通常・前売2,500円/当日3,000円)



桂梅団治

◎ナカノシマ大学&天神寄席の開催情報やお申し込みは
<https://nakanoshima-daigaku.net/>

ケータイや
スマホからは
こちら→



大阪水上バス・
岸田俊徳の



水辺で会いましょう

大阪水上バス株式会社企画宣
伝部課長。ミナミの劇場プロデ
ューサーを経て、関西・大阪21
世紀協会にて大阪の文化事業
に関わる。2010年より現職。

初心に戻って考えてみたりして…

JR大阪城公園駅の改札を抜けて一歩外へ出ると、目の先に大阪城天守閣の凛とした姿を見ることができます。なぜだか見るたび「ああ、自分は大阪に暮らしているんだ」なんて実感したりします。そこから川の方へ少し歩くと、まもなく40周年を迎える大阪では定番の観光船のりば、大阪城港があります。

船に乗ると最初に目につくのは、公園内が軍需工場であった名残りの水門。物資などの搬入出のために造られたものですが、今は役割を終え、あるがままの姿を見せています。それを過ぎる

と船は緩やかにスピードを落としていきます。護岸の桜並木から一瞬覗く大阪城天守閣を見せるため。一昔前、CGなどがない時代は、この橋から見える天守閣は背景に現代の建築物が映りこまないため、テレビや映画の撮影に重宝されたそう。船から見るその姿も絶品で、今ではここから撮影した写真を携帯の待ち受け画像にすると縁起が良いと「出世大阪城」と呼ばれているのです。



船から眺められる「出世大阪城」。

ご多分に漏れず、僕の携帯の待ち受けも「出世大阪城」。出世が楽しみだなあ。

お堀の石垣を眺め、京街道の起点である京橋をくぐると、そこはかつて「淀川」と呼ばれていた大川。三十石船、北前船、金毘羅船、さまざまな船がやってきて物流の拠点ともなった八軒家浜を通り過ぎると、中之島が見えます。夕日が落ちていく中之島の風景は、この辺りから見るに限ります。そういえば10月頃は淀屋橋から東を眺めると生駒山からきれいに朝日が昇る

ので、桟橋で「ご来光カフェ」というイベントが開催されるのです。なんとなく日の出と日没のそれだけで、この川の縁起のよさを感じたりもします。

気がつくともう船は大阪城港に到着。このくらいの時間がちょうどよいのかも。一生に1回じゃなくて、ちょいちょいこんなクルーズに乗ってみる。焦らずゆっくり大阪を楽しんでみるのには最適かもしれません。

最後に、昨年末、春野恵子さんの新



中之島の東に差しかったアクアライナー。

作浪曲「水の都の大阪めぐり」(P12)を観るために大阪市中央公会堂に行ってきました。真面目に構えていたのですが「毛馬閘門の下流に尻無川〜」…なんだこれは！ こんな面白いネタに今まで気付かなかった！ もちろんちゃんとした浪曲ですので、ぜひ一度聞いてみてくださいね。

大阪水上バス



☎0570-03-5551 <https://suijo-bus.osaka>



水都大阪の定番、 アクアライナーに乗ろう！

大阪水上観光の定番と言えば「アクアライナー」。屋根が平たい形をしているのは、海の潮位の影響を受けやすい大阪の川を走るため、橋をくぐりやすくする工夫です。大阪城周辺や中之島エリアを水上から再発見できるのもクルーズの楽しみです。

アクアライナー

運航日●土・日・祝のみ運航 料金●大人1,600円、こども(小学生)800円 ※3月13～21日までは、大人1,500円、こども(小学生)750円。詳しくはwebサイトをご確認ください。

予約●大阪水上バス予約センター☎06-6942-5511 (10:00AM～4:00PM)



こころまち つくろう
KEIHAN
大阪水上バス

M A I N F O R M A T I O N

3・5月 SALON 大阪ガスビルのカフェにて開催! 本渡章さんの楽しい「古地図サロン」。



本渡章の「古地図サロン」

奇数月の第4金曜日の3:00PM~5:00PM、大阪ガスビル1階のカフェ「feu」にて開催。毎回、4:00PMから本渡さんによる30分トークも。参加は無料、入退場自由、カフェでの1オーダーが必要。なお参加時にはマスク着用のこと。

3月26日(金) テーマ「特集・鉄道&電車地図」

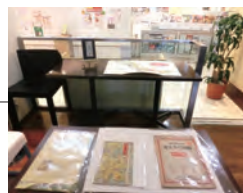
近代化の時代を駆け抜けた鉄道地図、電車地図は明治~大正~昭和前半の地図の一大ジャンル。その魅力をお届け。

5月28日(金) テーマ「特集・鳥瞰図ふたたび」

2018年前半の好評シリーズのアンコール特集。吉田初三郎、井沢元晴のほか、サロン初登場の絵師の図も登場。



「日本一気軽に古地図と遊べる場」を目指して、作家の本渡章さんが開催している「古地図サロン」。奇数月の第4金曜日の午後、大阪ガスビル1階のカフェ「feu」を会場に行われている。
本渡さんが所蔵するコレクションの中からセレクトされた10点ほどの古地図が並び、参加者は間近で鑑賞できる。虫眼鏡でじっくり眺めるのもよし、気になったことがあれば本渡さんに尋ねるのもよし、思い思いに楽しめるのがこのサロン



りも古地図サロンを通して生み出したものなど。
午後のひととき、カフェでお茶を飲みながら古地図鑑賞といこう。

の魅力だ。毎回異なるテーマも楽しみの一つ。3月は鉄道&電車地図を、5月は鳥瞰図を特集する予定とのこと。

本渡さんによれば、この場をきっかけに生まれたご縁も多く、ナカノシマ大学5月講座のテーマでもある東畑建築事務所や、鳥瞰図作家・井沢元晴氏のご遺族とのつながりも古地図サロンを通して生み出したものなど。

新作 ROUKYOKU 「水都大阪」を紹介する創作浪曲が誕生! 春野恵子さんが語る動画も公開中。

中之島や大阪の名物であるシテ・クルーズは、新型コロナウイルスの流行によりなかなか厳しい状況。そんな中、「水都大阪」をアピールするとともに、舟運事業に携わる人々を応援するべく、創作浪曲「水の都の大阪めぐり」が誕生した。浪曲にはドラマチックな展開がつきものだが、この物語では「中之島橋蔵」という男が主人公。時空を飛び越えるという特殊能力を駆使して、江戸時代から現代まで、さまざまな時代と場所の水都の風景を訪ねていく。

そんなユニークな浪曲を語るのには、東京大学卒業後、芸能界を経て浪曲師となったことで有名な春野恵子さんが、リズムカルな節回しと共に、大阪らしい笑いどころもたっぷり。それでいて勉強になることも多い。監修を手がけたのはナカノシマ大学にも登場する(P10)高島幸次先生で、資料を元に構成作家の米井敬人さんが脚本を書いた。

昨年、大阪市中央公会堂で初めて披露され、現在はYouTubeで春野恵子さんが歌う動画も公開中。背景に映るいろいろな水辺の風景が臨場感たっぷりだ。



昨年末に行われた「水の都大阪の浪曲完成記念講演会」の様子。

春野恵子 創作浪曲

「水の都の大阪めぐり」

YouTubeにて公開中、無料で視聴できる。
また、3月25日(木)の天神寄席(P10)に春野恵子さんが出演し、この演目を披露する。
https://www.youtube.com/watch?v=eFsguyo1_0s



3月

川の上から手紙を送ろう!

G O O D S

「御舟かもめ」のオリジナル絵はがき。



「御舟かもめ」オリジナル絵はがきセット

写真家の小倉優司さん、イラストレーターの中村隆さん、アラタ・クールハンドさん、奈路道程さんの4人の作品が揃う豪華な絵はがきセット。5枚1組1,300円で、3月24日(水)からwebサイトもしくは船上で販売。売り切れ次第終了。
<http://www.ofune-kamome.net/>

中之島でもよく見かける小さなクルーズ船「御舟かもめ」が、オリジナル絵はがきセットを発売した。イラストレーターと写真家4人による、大阪の川の風景や未来の暮らしをイメージした作品を絵はがきにしてみたもので、それぞれの作風の違いが楽しめる。そのうちの一人は「島民」の表紙イラストでもおなじみの奈路道程さん。現在製作中とのこと、どんな作品に仕上がるか期待が膨らむ。

企画した船長の中野弘巳さんは、「この企画はコロナで延期していましたが、旅に出かけづらい今だからこそ、遠方の方にも大阪の川を思い出し、てほしいと考えました」と話す。webサイトと船上でも販売し、船上には小さなポストを設置して、船に乗りながら手紙を出すこともできるという趣向。



3月24日(水)から4月14日(水)にかけては桜の季節に合わせたクルーズも運航。お花見をしながら中之島での思い出を絵はがきにしたためて送ってみよう。

んは、「この企画はコロナで延期していましたが、旅に出かけづらい今だからこそ、遠方の方にも大阪の川を思い出し、てほしいと考えました」と話す。webサイトと船上でも販売し、船上には小さなポストを設置して、船に乗りながら手紙を出すこともできるという趣向。



中之島まちみらい協議会だより

第7回

「今年の最優秀作品は?」

中之島まちみらい協議会の活動の一つに、「NAKANOSHIMA-STYLE.COM」のフォトコンテストがあります。毎年さまざまなテーマで開催し、中之島のディテールを見つめ続けてきました。いつも中之島の新しい魅力を発見でき、私たちにはとても大切な活動です。

今年度のテーマは「自然と共生する中之島」です。先日、最優秀および優秀賞が決定し、約200作品の中から、磯西美帆さんの「おこぼれ待ち」が最優秀作品に輝きました。中之島の魅力的な風景を象徴する水辺、生き物、自然というすべての要素が揃い、調和していると共に、人のにぎわいも感じられる写真です。

この他、優秀賞の5作品も合わせて、「NAKANOSHIMA-STYLE.COM」のwebサイトでご覧いただくことができます。四季折々の中之島の自然を写真でお楽しみいただくと共に、今秋も開催予定のフォトコンテストへのご応募もお待ちしております。中之島まちみらい協議会では、フォトコンテストを含め、中之島の魅力を皆様にお届けすべくさまざまな活動を引き続き実施していきます。



最優秀賞
撮影者:磯西美帆さん
作品名:「おこぼれ待ち」

この日は中之島を散歩しながら友達の写真撮っていました。3時のおやつということで、川沿いにあるカフェに入ってコーヒーとスイーツをテラス席で食べていました。天気も良く、テラス席から見える中央公会堂を眺めながら一息ついていると、真横に1羽の鳥が飛んできました。人間慣れているせいかまったく逃げず、私たちの食べ物を見ながら「おこぼれ待ち」をしているようでした。少しすると、観念したかのようにまた飛んでいきました。きっとあの鳥も、私たちと同じように3時のおやつを探しにきたのかもしれないね。

中之島の地域情報サイト

中之島スタイル.com

<https://www.nakanoshima-style.com/>

大阪—京都プレミアムな旅だより 春

3000系車両にも新登場！

プレミアムカーで快適なひとときを。



Rendering © GK-DSH 2020

京阪電車の座席指定の特別車両、プレミアムカーに青色の3000系車両が新たに加わった。3000系は、「島民」と同じく2008年の中之島線開業とともにデビューした車両。当時を覚えている読者も多いだろう。これまでの赤色の8000系車両と同じく6号車がプレミアムカーになり、昼間時は基本的にすべての特急で利用できるようになった。

プレミアムカーの好評の理由は、なんと言ってもその快適性。1両の座席数を40席に抑えたゆとりのある空間に並ぶのはヘッドレスト付きのリクライニングシート。ゆったりとくつろげるだけでなく、大型テーブル(一部の座席を除く)とコンセントが付き、無料Wi-Fiも完備。忙しいワーカーにもびつたりだ。エントランスにはラゲッジスペースもあり、大きな荷物を置くこともできる。金色に輝く扉をはじめ、上品で高級感のあるデザインも秀逸。漆黒色と生成り色をベースにした落ち着いた色のある内装には、ところどころにアクセントカラーの金色が見えるのも好印象。エンブレムには京阪電車の伝統の「鳩マーク」があらわれ、歴史



と風格を感じさせる。プレミアムカーには全車両に空間の空気を浄化する「ナノイオンX」発生装置を搭載し、見えない快適性にも気を配っている。また、予約専用サイト「プレミアムカークラブ」での乗車実績に応じてたまる「プレミアムカークラブポイント」も新登場。さ

らに、特急停車駅のホームなどにはキャッシュレス券売機が新設され、乗車に必要なプレミアムカー券やライナー券を購入できるようになった。より気軽に乗れるようになったプレミアムカー。車両のバリエーションが加わって、「どっちに乗ろう？」と選ぶ楽しみも増えた。



ノートパソコンも置ける大型のテーブル(一部の座席を除く)。



便利なコンセントは全席に完備。



包み込まれるような座り心地のリクライニングシート。

「プレミアムカークラブポイント」を利用しよう！

「プレミアムカークラブポイント」は、予約専用サイト「プレミアムカークラブ」でのプレミアムカー券・ライナー券の乗車実績に応じてたまる新サービス。たまったポイントはプレミアムカー券・ライナー券の購入に利用できる。乗車の時間帯によっては進呈率が最大10%になる場合も。また、京阪ユーザーにはおなじみの「おけいはんポイント」からの交換も可能で、3月1日～28日までポイントチェンジキャンペーンを実施中。おけいはんポイントをプレミアムカークラブポイントに交換した会員の中から抽選で100名に、プレミアムカークラブポイント1,000ポイントが進呈される。

◎詳しくはプレミアムカー専用サイトをご覧ください。

プレミアムカーの快適性をぜひご体感ください。

運転区間 淀屋橋(大阪)⇄出町柳(京都)

特急停車駅(淀屋橋・北浜・天満橋・京橋・枚方市・樟葉・中書島・丹波橋・七条・祇園四条・三条・出町柳)

料金 400円・500円(別途乗車券が必要です。なお、プレミアムカー以外の車両は従来どおり乗車券のみでご乗車いただけます。)

予約方法 予約専用サイト「プレミアムカークラブ」または特急停車駅のプレミアムカー券・ライナー券キャッシュレス券売機、インフォメーション等で「プレミアムカー券」をお買い求めください。



京阪特急 座席指定|特別車両

PREMIUM CAR

プレミアムカー
専用サイト



お問い合わせ
京阪電車お客さまセンター
☎06-6945-4560
(9時～19時
※土・日・祝日は17時まで)



2021年3月 島民プレス

◎発行終了のお知らせ
12年間の愛読
ありがとうございました。
 今回をもって「島民」は発行を終了することになりました。2008年、京阪電車中之島線の開業をきっかけに創刊して以来、12年もの長きにわたって発行を続けてこられたのは、読者の皆様にご愛読いただいたおかげです。心より感謝申し上げます。また、取材でお世話になった方々、配布に協力していただいた方々、その他、「島民」に関わってくださいましたすべての方に御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

編集・発行人／大迫 力(株式会社140B)
 編集・発行／島民プレス 若狭健作 網本武雄 松本 創
 〒530-0047 大阪市北区西天満2-6-8 堂島ビルディング602号 TEL.06-6484-9677 FAX.06-6484-9678
 制作進行／堀西 賢(ALEGRESOL) デザイン／山崎慎太郎 表紙イラスト／奈路道程 印刷／佐川印刷株式会社

◎バックナンバー公開中
 ナカノシマ大学のwebサイトにて、引き続きバックナンバー(PDF)をご覧いただけます。<https://nakanoshima-daigaku.net/about/tomin/>



京都へ、大阪へ。
プレミアムなひとときを、
お約束します。



Rendering © GK-D&H 2020

京阪 座席指定特別車両「プレミアムカー」。

乗りたい時にすぐそばに、あなたの上質空間。



運転区間

淀屋橋⇄出町柳
(大阪) (京都)

料金

400円・500円 (別途乗車券が必要です。なお、プレミアムカー以外の車両は従来どおり乗車券のみでご乗車いただけます。)

プレミアムカー 検索

購入方法

予約専用サイト「プレミアムカークラブ」または特急停車駅の「プレミアムカー券・ライナー券 キャッシュレス券売機」や「駅窓口」でお買い求めください。※「プレミアムカークラブ」「駅窓口」の発売期間は、ご乗車14日前の10:00からです。▶WEBで購入するとポイントGET!

詳しくはこちら | <https://www.keihan.co.jp/traffic/premiumcar/> 京阪電車お客さまセンター: TEL. 06-6945-4560 [平日]9:00~19:00 [土日]9:00~17:00 (12/30~1/3は休み)